

# 宇治市で実施している 本人ミーティングについて

宇治市役所 健康長寿部 健康生きがい課  
地域包括ケア・介護予防推進係  
保健師 角川 絵夢  
kenkouikigaika@city.uji.kyoto.jp

# 宇治市の概要 (H30.4.1時点)

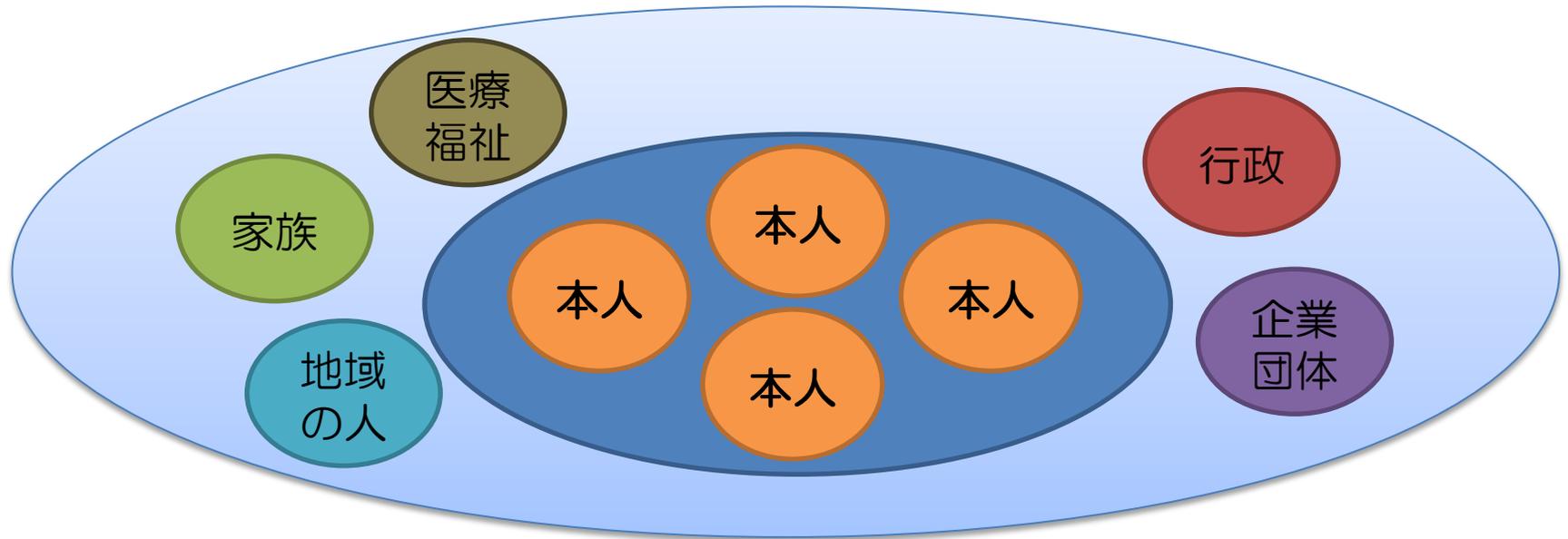
- 人口 187,473人
- 65歳以上人口 53,057人
- 高齢化率 28.30%
- 地域包括支援センター 6ヶ所+2支所
  
- 認知症疾患医療センター 2ヶ所
- 認知症地域支援推進員 3名
- 認知症初期集中支援チーム設置 平成25年度

# 本人ミーティングとは？

認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としてい  
ることを語り合い、自分たちのこれからの  
よりよい暮らしや暮らしやすい地域のあり  
方を一緒に話し合う場。

(本人ミーティング開催ガイドブックより)

# 本人ミーティングとは？



「集って楽しい！」

+ 本人同士での「気づき」「意見」の語り合い  
+ それらを地域に伝えていく場

# 宇治市で実施している 本人ミーティング

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

**京都文教大学**

ともいき研究<産官学共同型>

**「宇治市認知症アクションアライアンス  
に関する当事者研究」**

# 「宇治市認知症アクションアライアンスに関する当事者研究」

- 開始:平成28年度～(今年で3年目)
- 目的:認知症当事者・家族の(が)
  - ①どんな世界を生活しているのかを理解する
  - ②ニーズを明らかにする
  - ③認知症とともに生きる知恵や技術を知る
  - ④施策立案と評価に参画できることを目指す
- 方法:1)生活の中での記録  
2)個別面接  
3)グループミーティング  
(通称:当事者研究グループミーティング)

# 当事者研究グループミーティング

- 主 体: 京都文教大学
- 参加者: 教員・・・全体進行役

当事者・家族・・・主役

学生

行政(京都府、宇治市)

認知症コーディネーター

認知症疾患医療センター(Dr、PSW)

地域のボランティア(認知症連続講座受講者)

・・・グループ内進行、記録、オブザーバー

- 方 法: 6～10人/1G×6G、BS法→KJ法

# 当事者研究グループミーティング

H28	開催日	開催場所	参加者	テーマ
1	2016.6.21	洛南病院	当事者・家族12名 大学生 19名 オブザーバー 7名 計 38名	「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現にむけて
2※	2016.7.18	京都文教大学	参加者 300名	本人講演
3	2016.7.19	京都文教大学	参加者 32名	大学れもんカフェ
4	2016.10.25	京都文教大学	参加者 35名	買い物支援のアイデア
5	2016.11.22	京都文教大学	参加者 35名	ともいきフェスティバルに向けて

※グループミーティングとしての実施ではない

# 当事者研究グループミーティング

H29	開催日	開催場所	参加者	テーマ	
1	2017.5.2	京都文教大学	参加者	34名	茶摘みに向けて
2	2017.6.22	京都文教大学	参加者	43名	京都式オレンジプラン 「10のアイメッセージ」 全体GW
3	2017.7.4	京都文教大学	参加者	46名	「10のアイメッセージ」 本人MT
4	2017.8.28	洛南病院	参加者	26名	「10のアイメッセージ」 家族MT
5	2017.10.24	京都文教大学	参加者	45名	京都認知症総合セン ター・常設型カフェ
6	2017.11.21	京都文教大学	参加者	46名	京都認知症総合セン ター・常設型カフェ
7	2018.1.16	京都文教大学	参加者	35名	京都府・宇治市フォー ラムに向けて

# 当事者研究グループミーティング

H30	開催日	開催場所	参加者	テーマ	
1	2018.5.8	京都文教大学	参加者	51名	茶摘みに向けて
2	2018.6.12	京都認知症 総合センター	参加者	55名	京都認知症総合セン ター・常設型カフェ
3	2018.7.10	京都認知症 総合センター	参加者	65名	常設型カフェ 実現に向けて
4	2018.10.23	宇治市役所	参加者		
5	2018.11.27	未定			
7	2019.1.15	未定			

# 当事者研究グループミーティング

- テーマ: その時々で当事者含む関係者で決める
    - 「認知症にやさしいまち・うじの実現に向けて」
    - 「買い物支援のアイデア」
    - 「茶摘みに向けて」
    - 「京都式オレンジプラン10のアイメッセージ評価」
    - 「京都認知症総合センター常設型カフェに向けて」
- ⇒ 前回のテーマを深めたり、具体策を検討したり、  
継続的に企画している

# 当事者研究グループミーティング

- 日程調整：主体が年間計画を立てている
- 会場設定：テーマに応じて調整
- 当事者への呼びかけ：  
本人と関係性ができている認知症疾患医療  
センターDr.や認知症コーディネーターが声掛けし、  
本人が行ってみたいと思った場合に参加
- その他の参加者への呼びかけ：  
テーマに応じて関係者へ呼びかけ

# 当事者研究グループミーティング

- 当日の流れ

主体の動き：会場設営、司会進行

市の動き：

京都府立洛南病院テニスサークル～14:00

↓市が当事者・家族をバスでお迎え

会場へ移動

認知症コーディネーターの動き：

移動手段やパートナーがいない時にお迎え











# 当事者研究グループミーティング

- 成果:

- ① 当事者による施策評価・提案

- (京都式オレンジプラン)

- ② 参加者の認知症に対する疾病観が変わる

- (学生・ボランティア)

- ③ 当事者の声を活かし、ニーズに合った事業に改編

- (お茶摘み)・新規事業化(当事者講演会)

⇒ 当事者本人の参加できる場・生きがい・楽しみが増える

# 当事者研究グループミーティング

- 大切なこと:

- ① 本人が安心して来られる場所

誰が来るのか、誰がいてくれるのか、知っている人がいるか、安心して話せる場所か、迷わず行けるか

- ② 本人にとって関係性のある人からの誘い

認知症カフェなどでの出会い、当事者同士のつながり、事業と事業の連続性

- ③ 本人がグループミーティングの効果を実感できる

本人の声がちゃんと活かされている、次につながる